

第1学年 「比例と反比例」 森田 大輝 教諭
 学力調査から見てきた課題（「反比例関係であることの判断」「関数領域における方法・手順の説明」）の要因は小中学校間の学びの接続にあると考え、関数関係を判断する根拠を表から式へと変え、「式のよさについて感じる事ができる」授業づくりに数学科がチームとして取り組んだ提案でした。

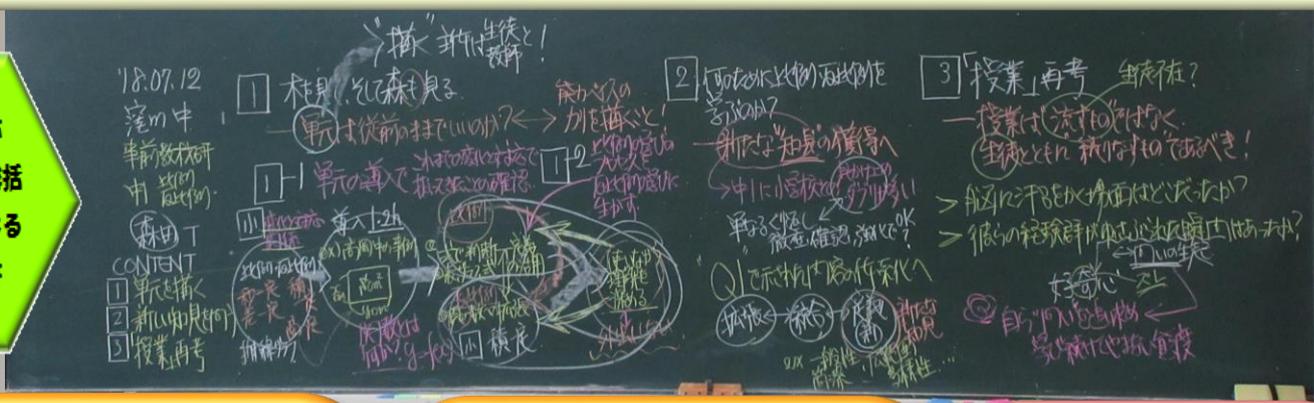
「小学校での学習を踏まえて式のよさを感じることができたか」を論点としたグループ協議では、「定義変更を明確にすること」「表・式・グラフを関連させること」「単元を通して表・式・グラフそれぞれのよさにつなげること」等、指導上大事にしたいことや、それらへの手立てについて交流されました。



比例の学びのプロセスを反比例の学びに生かす！

単元を描く主体は生徒と教師である。例えば、授業の中で毎時間、「めあて」は何にしようかと言うのではなく、前時の終わりには次にやるべきことが分かり、今日はこういうことをするのだと生徒自身が自覚できる単元開発をしていくことが大事である。そのような単元になれば、比例で学習した一つ一つのことが反比例でもいえるのかと学ぶべきことが自覚でき、このことさえ押さえておけば、中学校の反比例も説明できるという、学んでいく方向性を生徒自らが自覚できるようになる。これが主体的な学びであると学びのプロセスの重要性や能力ベースのカリキュラムを描くことの必要性等についてご指導いただきました。

齋藤一弥
 学力向上総括
 専門官による
 指導板書



授業者の声

今回の話を聞き、小学校段階における比例、反比例の学びの上に立って、中学校段階で新たな知見を獲得し、統合、拡張していく学びのプロセスを意識させるような単元計画を描く必要があると感じました。

参会者の声

既習事項との関連をしっかりと把握した上で単元構成を変化させていくことの重要性を学んだ。単元を通して、どんなことをどのように学ばせるか、どう指導していくかが改善のポイントであると感じた。【伊野中 岡村勲教諭】

窪川中学校では「比例の学びのプロセスを反比例の学びに生かす」ことを視点に単元を見直しています。

次回は **10月26日(金)**
13時20分開始です！
 ぜひご参加ください！

